

魚山ぎよざん勝林寺しょうりんじは梶井御殿かぢゐごてんの北にあり、本尊を証しょう拋阿弥陀このあみだと号す、坐像にして長七尺、仏工の祖やすなり康成かふなりの作なり。当院は

一条左大臣いちじょうざだいじん雅信公まさのぶのふこうの息少将せうしやう入道にふだう寂源じやくげん法師ほつしの草創なり。むかし叡山えいざんの僧都そうと卒そつ覚超かくてう、同静慮院しやうりよゐんのへんく偏救へんくとて、いみじき智者

のおはしき、此如来の前に於て仏果の空不空の議論ありけり。覚超は不空との給ひしに、如来相好を隠し、偏救は空の

義を立て給ふにかへつて相好をあらはし給へり。然れば中道ちゆうだう実相じつさうこそ如来の本意なれといふこと、こゝに於て顕れぬ。

夫より世の人証しょう拋弥陀このみだと称しける。又文治二年の秋、法然上人はふねんしやうにんと山門座主さんもんざす顕真けんしん法印はふいんを始め、諸宗の学徒と一向専修の間

答待りしに、法然上人の談論あるときは、本尊光明を放給ふ、これを大原問答といふ。諸宗の知識みな上人の弘法こうぼうに伏

し、顕真けんしんもたちまち専修の行者となり、則法泉坊はふせんぼうに住給ひ、称名念仏絶えずとなん。